すぐに使える、心に働きかける植物の力

フラワーエッセンスの〝今〟を知る。

サロンで使いこなす！

80年以上前に、英国の医師エドワード・バッチ博士により生み出されたフラワーエッセンス。感情に働きかけるセラピーツールとして、世界のセラピストに愛用されています。そして現在、フラワーエッセンスはさまざまな広がりを見せています。花などの植物だけにとどまらず、クリスタルなどの鉱物、生きている動物、氷河や聖地といった環境など、大自然を取り巻く全てのものが世界中のプロデューサーたちによってエッセンスとして作り出されています。今年5月には、フラワーエッセンスの国際コンファレンス（世界大会）が13年ぶりに日本で開催。多くの人が会場に足を運び、改めてその魅力が再確認されました。本特集は、世界大会を通してフラワーエッセンスの最新情報を紹介すると共に、サロンワークでさまざまなセラピーと組み合わせてフラワーエッセンスを活用するセラピストたちが、施術効果をさらに上げるその方法を解説します。

写真◎漆戸美保

PART 1
フラワーエッセンスの現在を知る

フラワーエッセンス療法の歩み

国やさまざまな分野の人が繋がり、フラワーエッセンスの文化をつくる

20世紀前半にイギリスで始まったフラワーエッセンス療法。優しく感情を癒すことで人気のセラピーですが、詳しく知らない人も多いかもしれません。日本でのエッセンスの普及に長年携わってきた玉井宏さんが、その魅力と現状をお話しします。

ネイチャーワールド株式会社代表取締役
玉井 宏◎文

フラワーエッセンスは、晴れた日の午前中に、浄化された水に花を浮かべて、その微細な力を写し取ってつくる。

花の力で感情を解放する、日本人に向いた自然療法

「フラワーエッセンス療法」とは、1930年代にイギリスのエドワード・バッチ博士が開発した、花のエネルギーを使った自然療法です。

花には恐れや悲しみ、怒りなど私たちの感情に働きかける力があると言われており、それを利用しているのがこの療法です。さまざまな花が固有に持つエネルギーを水に転写し、3週間～1ヵ月ほどかけて摂取することで、心を徐々に解放する方法を創設者のバッチ博士が確立したのが始まりです。

現在はヨーロッパの他、日本、アメリカ、ブラジル、インド、オーストラリアなどの国に広がり、保険診療の対象として扱う国もあるようです。

「本当に効くの？」と思う方もいるかもしれませんが、そのエネルギーはとても穏やかに作用するので、感じ方は人それぞれのようです。でも病気がなぜか改善していたという人や、不安を手放して自由に生きられるようになったという人もたくさんいます。

実は、日本はフラワーエッセンスの人気が非常に高く、世界でも有数の消費国のブラジルに次ぐほどの需要があるのをご存じでしょうか。国内では約90～100万人が愛用しており、世界で3本の指に入ると思います。

なぜ日本で人気かと言うと、やはり、「これを言ったら傷つくだろう」とか、「怒られる」とか、感情を抑圧している人が多いからではないかと感じています。そういう気持ちをずっと我慢して抑えてきた人たちが、フラワーエッセンスを摂ることによって、自分というものを解放し、きちんと表現していけるようになる。エッセンスを摂った瞬間に涙がどっと溢れ出るというような場面にも数多く接してきており、フラワーエッセンスは日本人にとても向いていると実感しています。

複雑化した時代に合わせた新しいタイプのエッセンスも

現在は、バッチ博士のフラワーエッセンスの他に、さまざまなプロデューサーによって開発された新しいエッセンスが登場しています。花から採れたものの他、鉱物や動物のエッセンスもあり、非常に人気のシリーズもあります。私の印象では、バッチ博士の時代に比べて社会が急速に変化し、人の悩みが複雑化したことで、現代に合うものが自然と求められているようになったという感じを受けます。

例えば、NY同時多発テロの頃には、カクタス（サボテン）のエッセンスを買い求める人がどういうわけか増えました。もちろん私たちがすすめたわけではありません。サボテンは「防御」のエネルギーを持つので、人々が「自分の身は自分で守る」という力を無意識に求めたのかもしれません。

さらに興味深いことには、同じ年に枯れかけていたサボテンに通常の1・5倍くらいの花が咲きました。私の庭のことだけでなく、多くの人から同じ話が寄せられたのです。今の時代に必要な植物エネルギーを残すために、地球が大きな花を咲かせたということが、直感的に分かりました。

自然と繋がることで内なる自分に気づいていく

これまではフラワーエッセンスというと、ネガティブな感情の解放やそれによる悩みなどに対処するために使うという方法が一般的でした。不調になったから、駆け込み的に使う。そして改善したらおしまい。

でも本当は、不調になる前にフラワーエッセンスを通して、自分の魂と繋がることが大切なのだと私は思っています。なぜなら、本来エッセンスというのは、自然の恵みによって出来たもの。その力をいただくという行為は、大いなる自然、つまり地球や宇宙と繋がっていくということです。さらに掘り下げていくと、魂のままの自分を生きることに繋がると思うのです。

人間以外の動物は野生の中で生きて、その力を保ってきていますが、人間は文化的な生活で鈍くなり、本来の存在が仕舞われています。生まれた時の、無垢な存在を置き忘れたまま、大人になっている。

でも今はもうそんな時代ではありません。心を開いて他者と繋がり、一つになっていくことが本当に必要になってきています。植物をはじめとした自然の力は、それを助けてくれることをもっと知っていただきたいのです。

とは言え、エッセンスをやみくもに摂っていけば良いというわけではありません。同時に地に足を着け、自分の芯を持つことが大切です。依存していくのではなくて、まず自分がぶれず

＊Profile
玉井宏（たまいひろし）さん
ネイチャーワールド株式会社代表取締役。1997年にフラワーエッセンスと出合い、次第にその魅力に惹かれ、以来エッセンスの普及活動に専念。パシフィックエッセンスやPHIエッセンスなど数多くのフラワーエッセンスプラクティショナーでもある。監修書に『はじめてのフラワーエッセンス』（河出書房新社）がある。

さまざまなエッセンスの種類

花（植物）
植物や花のエッセンスは、感情に働きかけると言われている。クレマチスやローズなどの他、野菜や果物などのエッセンスも登場している。

鉱物（クリスタルなど）
地球を生命体として考えた時に、「肉体」に当たるのが鉱物。そのため、鉱物のエッセンスは一般的に肉体の不調に作用すると言われている。

環境
土地のエネルギーをいただくのが、環境のエッセンス。氷河などの大自然の力を閉じこめたものや、聖地といった特別な場所でつくられたエッセンスもある。

動物
これからの世の中に必要な波動として期待されているのが動物のエッセンス。中でも無邪気な心を取り戻すイルカのエッセンスは、高い人気を誇っている。

制作協力◎ネイチャーワールド株式会社　TEL03-5214-4881　http://www.natureworld.co.jp

に現実的に行動していく。そうでないとセラピストとして、あるいはプラクティショナーとして信頼してもらうことは難しいでしょう。

家庭の薬箱から病院まで文化として定着させていく

今年5月に、日本で13年ぶりに開催した国際フラワーエッセンスコンファレンス（世界大会）で、私は「フラワーエッセンスの文化をつくる」とスピーチしました。また、そのクロージングセレモニーでは、各メーカーのマザーエッセンス（母液）を集めて新たなエッセンスをつくるという、世界でも例のない試みをしています。これにより、フラワーエッセンスを限られた世界で使うのではなく、もっとオープンになって皆で手を取り合って広めていこう、地球や自然と繋がっていこうという思いを、少しは世界に発信できたのではないかと思っています。

実際に輪を広めていくには、「富山の薬箱」のように家庭で日常的にエッセンスを選んだり、ブレンドが出来るようになると良いですね。子どものためのものや介護に役立つエッセンスもあるので、お母さんたちに気軽に使ってもらいたい。保存のためにブランデーが使われていますが、飲むのが苦手ならオイルに混ぜてトリートメントしても良いし、スプレーにして部屋に撒いても良い。いろいろな使い方が出来ます。

今はまだ法律上の規制が多いけれど、医師や医療従事者の方にも積極的に取り入れていって欲しいですね。副作用や禁忌はありませんから。

セラピストや医師やさまざまな分野の人たちが連携し、フラワーエッセンスを通してエゴやネガティブなものを全て手放していく。一人でも多くの人が、自然や内なる自分と繋がっていくことを願っています。

国際フラワーエッセンスコンファレンス2014

2014年5月2日〜5月6日の5日間にわたり、東京・永山で開催された世界大会。500人以上が訪れる大規模なイベントとなった。

コンファレンスでは、世界のフラワーエッセンスメーカーの人気プロデューサーによるセミナーの他、医師や獣医師、中医師、アロマセラピストらによるケーススタディやこれからのフラワーエッセンスの可能性を発表するワークショップも実施された。

アロマセラピストやホメオパスなどたくさんのセラピストが会場を訪れた

世界で人気のフラワーエッセンスプロデューサーが集結。例年の大会でも一堂に揃うのは稀とか

マザーエッセンス（母液）を元にした「グランドマザーエッセンス」を世界初でつくった

すぐに出来る！ 購入したボトルのブレンド方法
～トリートメントボトルの作り方～

用意するもの

購入したフラワーエッセンス（通常、ストックボトルと呼ばれる（左から2番目））は、さらに希釈して使うことも出来る。ストックボトル、希釈用の水（左）と、保存用のブランデー（右）、保存ボトル（右から2番目）を用意。

手順

①ブランデーをボトル容量の20〜30%ほど注ぎ、さらに水を足し、ボトルを一杯にする。そこにフラワーエッセンスを3〜4滴ほど入れて完成。

②オリジナルブレンドのエッセンスをつくりたい場合は、ブレンドの数は、シングルボトル（1種類の花のみ）のものを4〜5種類程度に抑えること。

>> PART 2
フラワーエッセンス特別対談

中医学、アロマセラピーとフラワーエッセンス療法

近年、日本国内において広がりを見せているフラワーエッセンスですが、まだまだ充分とは言えません。そこで、中医学とアロマセラピーという、異なるジャンルのセラピストでありながらエッセンスのスペシャリストでもある二人の対談が実現。他の療法の共通点や、お互いの活かし方、これからの日本におけるフラワーエッセンスの活用方法などについて語っていただきました。

取材・文◎中澤小百合

東洋中医学ドクター
「パシフィックエッセンス」創始者
サビーナ・ペティット

中医学ドクター。カナダ初のエッセンス会社「Pacific Essences®」の創設者兼ディレクター。夫と共に海洋生物と海洋植物のエッセンスを世界に先駆けて発表。プロとしてのキャリアは30年以上に及ぶ。東洋医学の叡知と知識をフラワーエッセンスと統合することを長年研究し、これら2つの癒しのフィールドを融合させたパイオニアとして国際的に認知されている。著書に『エナジー・メディスン』（中央アート出版社）がある。

×

英国IFA認定
アロマセラピスト
登石麻恭子（といしあきこ）

英国IFA認定アロマセラピスト。AEAJ認定アロマテラピーインストラクター。西洋占星術研究家。ホリスティックなツールとして西洋占星術をとらえ、アロマテラピーやフラワーエッセンスといった植物療法と鉱物・身体・西洋占星術の相関を研究し、ライフワークとしている。著書に『魔女の手作り化粧品』（ワニブックス）、『魔女のアロマテラピー』（INFASパブリケーションズ）、監修書に『スピリチュアルアロマテラピー事典』（河出書房新社）がある。

肉体や精神に働きかけるエネルギーメディスン

——サビーナさん、今回の日本でのコンファレンスの印象は？

サビーナ たくさんの方に来てもらえたし、プロデューサーも団結して、とても良いエネルギーが流れています。

——日本ではフラワーエッセンスへの認知度がまだ充分ではない状況ですが、どう感じますか？

サビーナ まず、「フラワーエッセンスはエネルギーメディスンで肉体や精神に働きかける」ということを理解してもらいたいですね。

パシフィックエッセンスはバッチ以降、最も古いフラワーエッセンスカンパニーの一つです。私たちにとって大切なことは、情報を根付かせるという

WEBで詳しく紹介！
Therapy Life
誌面に収めきれなかった対談をWEBで紹介！
http://www.therapylife.jp
公式サイト「セラピーライフ」TOPメニュー「記事・NEWSを読む」→特集からご覧いただけます。

TNCC Therapy Net College.com
セラピーが学べるWEB TV「TNCC」にて、サビーナ・ペティットさんの動画「伝統中医学を用いたフラワーエッセンス」を配信中！
詳しくは130ページの番組表をご覧下さい。
http://www.therapynetcollege.com

対談は、国際コンファレンスの期間中に行われた。連日、講演とワークショップに追われている中、サビーナさんは全く疲れを感じさせない元気の良さ

対談中、通常セッションで行うようにOリングテストを行うサビーナさん。これまでに多くの結果を出してきている

こと。フラワーエッセンスの効果をおとぎ話のようなものだと捉えてもらいたくないのです。これは現実のことで、実際の結果が得られるということを理解してもらいたいと思っています。

登石　日本に入ってきたばかりの頃はアロマと間違えられることも多かったように思いますが、実際に飲んで効果を感じることで、徐々に浸透してきている印象です。私自身も試しに飲んでみて、どんどんはまって今日に至るという感じです（笑）。すぐに効果を感じる方、じっくり飲んでみたら効果を感じる方などさまざまですが、すぐに効果を感じなかったために使わなくなってしまう方がいるのも事実ですね。

各国それぞれの作り手によるフラワーエッセンスがあり、合うもの、合わないものもあると思います。日本では今、何種類ものフラワーエッセンスを試せる環境にありますから、いろいろ試してみて、自分に合うものを見つけてもらえればと思います。

サビーナ　まさにあなたの言った通り。多くの人は、頭痛に対してアスピリンを飲めば、すぐに結果が出ることを経験している。そして、フラワーエッセンスにもそういった分かりやすい結果を同じように求めます。

例えば「バランサー」は、パシフィックエッセンスの中でも効果が早く感じられるもの。急なショックを受けた時、トラウマになるようなことが起きた時、これを摂るとすぐに違いが感じられると思うので、そういったもので実感してもらえるとフラワーエッセンスの見方が変わるかもしれませんね。

偶然から始まったフラワーエッセンスとの出合い

――フラワーエッセンスとの出合いはどんなものだったのでしょう？

サビーナ　私は教師を経て政府関係の仕事をしていました。夫のマイケルはもともと人類学者で農園も持っていたので、私たちは自然に親しみながら色々なライフスタイルを試し、瞑想もよく行っていました。そしてある日、書店に行ったらフィンドホーンの本が棚から落ちてきたんです。

登石　偶然ですか？

サビーナ　そう、偶然（笑）。それで読んでみたら、植物の精やスピリットについて書かれていて、すごく興奮しました。それからは植物に話しかけるようにしてみたら、彼らも話しかけてくれるようになったんです。

当時、私は仕事に疲れて燃え尽き症候群のようになってしまったんです。そこで、エネルギーヒーリングをしているカイロプラクターのところに行くようになり、そこでバッチフラワーレメディを処方されたのです。

その後、夫がフィンドホーンの創設者であるドロシー・マクレーンのワークショップに連れて行ってくれたのですが、同じ場所で指圧を教えている日本の先生がいたんです。指圧にも興味を持った私たちは、指圧を学ぶようになりました。その間も、また花が話しかけてきて。その時その時ガイドの言葉に耳を傾け、行動してきました。

――それで、フラワーエッセンスを作るようになったのですね。

サビーナ　最初は遊び感覚で作ってみようと思い、バッチ博士の方法を真似して。次第に作ったものにどんな効果があるかを研究するようになりました。その研究にあたって、５０００年の歴史がある東洋医学を使うというのは、とても良いと考えました。

――登石さんのフラワーエッセンスとの出合いは？

登石　私は小さい頃から植物が好きで、花や葉っぱの匂いで四季を感じるような子でした。それが精油になっているということを中学生の時に初めて知り、大学に入ってそれがセラピーとして使われていることを知りました。

大学では生物学を専攻してしまったが、最初は植物ではなくカエルの嗅覚について研究していました。でも動物実験に心が傷むようになり、興味のあったアロマの世界に。イギリスに留学していた時期があったのですが、精油を探しに行ったお店にフラワーエッセンスがあって、「これは何だろう？」と使ってみたのが出合いです。実際にアロマと両方使ってみると、同じ植物でも印象が違いましたが、「根っこは一緒」だと感じましたね。

普段はアロマセラピー、占星術、フラワーエッセンスを組み合わせた独自のセッションを行っている登石さん

アロマセラピー、中医学それぞれとの共通点とは？

サビーナ　普段、どのようにセッションを行っているのですか？

登石　最近は占星術と植物療法を組み合わせたセッションが多いですね。ホロスコープを見ながら、良い精油を診断してアロマスプレーを作り、そこにフラワーエッセンスを加えたり。

精油だけだと微細なエネルギーフィールドの部分への作用が足りないのですが、エッセンスを加えることで働きかけるエネルギーフィールドの範囲を広げられ、相乗効果が得られます。

サビーナ　エッセンスに香りを加えることで嗅覚から大脳辺縁系に刺激を与えて肉体レベルにも働きかけ、プラスαの効果が得られます。私もエッセンスに連動したスプレーとオイルを3種類作っていますよ。「アバンダンスオイル」はタンジェリン、「バランサー」はラベンダー、「ハートスピリット」はローズの香りがします。

登石　エッセンスに抵抗がある人でも、良い香りがすると取り入れやすいですね。抵抗というのはつまり緊張、筋肉が張っている状態。アロマには、それをほぐす効果がありますし。

サビーナ　鍼もそうです。副交感神経に働きかけて緊張を緩めます。私たちはそうやってバランスを取ることで自分を癒せるように出来ているんです。

登石　中医学とフラワーエッセンスには、どんな共通点がありますか？

サビーナ　「エネルギーを見る」ということですね。私はキネシオロジーを勉強している時に経絡を学びました。どこの経絡が弱っているか確認してスイッチを入れるべき場所を探します。

感覚的に「ジェリーフィッシュ」のエッセンスはハートに良いと思っていたのですが、確認するために、精神的に弱っている人にそれを与えました。そしてキネシオロジーで変化が出るかを試すと、実際に効果が見られました。

その後、ＴＣＭ（伝統中国医学）のドクターになり、現在は主にＴＣＭとフラワーエッセンスを使っています。Ｏリングも使いますね。クライアントのボディとマインドがそのエッセンスを受け取りたいという意思があるかどうか確認でき、クライアント自身にも納得してもらえます。

まだまだ新しい発見があるフラワーエッセンスの研究

――東洋医学を取り入れたセラピストが取り入れるとしたら、サビーナさんと同じような形になりますか？

サビーナ　今のように形になったのは自然な流れです。私の診療所は実験室のようで、日々試行錯誤してきました。例えば以前、70代で関節の硬化症を抱える人がいました。西洋薬はアレルギーで受け付けず、理学療法士が「腰痛を鍼で和らげて欲しい」と私に紹介してきました。腰の筋肉が硬く、鍼も入りにくいほどでしたが、少しずつ治療していくと鍼に反応して痛みが和らいできました。それで、「エッセンスを摂ってみる？」と聞いたら、「摂ってみたい」と言ったので、筋肉の硬さに良い「アネモネ」を2週間飲んでもらったのです。すると、腰の筋肉が柔らかくなって痛みも軽減されました。鍼

「フラワーエッセンスにアロマの香りを加えることで緊張もほぐせるし、取り入れやすいかもしれませんね」登石

「フラワーエッセンスは、誰も傷つけることなく害もない。それを知ってもらうことが大切ですね」サビーナ

パシフィックエッセンスの創始者であるサビーナさんは、現在もフラワーエッセンスの研究や普及活動に余念がない。

だけでは短期間でそこまで改善されなかったと思っています。

登石 フラワーエッセンスはどんな施術やセラピーとも組み合わせられることがメリットですね。

――フラワーエッセンスに興味がありながら、導入できていない人へのアドバイスはありますか？

サビーナ ぜひ、ワークショップに来て下さい。毎年日本に来ていますから。もしくは、パシフィックエッセンスの「シーエッセンス」のキットは、一箱に全ての経絡に対応するエッセンスが入っているので、それを試しに使ってみても良いですね。東洋医学を学んだ方なら経絡の知識があるでしょうから、使いやすいと思います。

登石 サビーナさんの著書『エナジー！メディスン』を読むのもおすすめですよ。美しい写真と共にエッセンスの理解が深められて、私のバイブルです。

――エッセンスの素晴らしさへの気づきや検証データは、日々積み重なっているのでしょうか。

サビーナ もちろん。種類をどんどん増やしていくことは可能ですが、常に新しい発見があります。自分の診療所で分かることもあるし、日本だけでも150人のプラクティショナーがいます。プラクティショナーになるにはケーススタディを出す必要があるので、新しい情報が入ってきます。研究に終わりはありません。もう定年退職をしているような年齢だけど、この仕事が出来ていることに感謝しています。

日本人のメンタリティーにはフラワーエッセンスが合っている

――日本でもっとフラワーエッセンスの普及が進むために何が必要ですか？

サビーナ 仮に効果が出なくても、傷つく訳ではなく、害もないことを知ってもらうことが大切ですね。例えば、小さな子供のわがままにイライラした時、ハートに何か問題があると感じる時、なんだか落ち着かないという時などに使ってみて、違いを感じることが出来たら、分かってくれるはずです。

登石 私もハートチャクラの問題を小さい頃から積み重ねてずっと持っていた気がしていて。サビーナさんの「ハートスピリット」を使ってみたら、スッーと入ってくる感じで気持ちが楽になりました。今では、ハートが傷んだ時のお守りのような存在です。

サビーナ ありがとう！ とても嬉しいです。そうやって実感してもらえることが一番。あとは、鍼灸師やアロマセラピストは資格制度があるため、プロだと認識されやすいですよね。フラワーエッセンスもそういった認定制度をもっと整備していくことも必要なのかも。ブラジルなどでは進んでいて、そういう流れになってきていますよ。

登石 日本人は〝隠してしまうメンタリティー〟があって心の問題が起きやすいので、積極的に使っていくと良い気がします。ここ数年、アロマの延長で興味を持ったりする人が増えているなという実感はあるので、これからますます広がっていって欲しいですね。

オレンジサニーパックルは、女性の更年期におすすめのエッセンス。第2、第3チャクラに対応している。

取材協力◎株式会社ネイチャーワールド　TEL03-5214-4881　http://www.netureworld.co.jp

フェイシャルトリートメント × フラワーエッセンス

PART 3-1

さまざまなセラピーワークに活かせるフラワーエッセンス

フェイシャルトリートメントと組み合わせる

肌と内面、両方にアプローチしてクライアント本来の美しさに導く

真の美しさは、心身どちらも癒されることで実現します。その意味では、感情を癒すフラワーエッセンスは美容目的のフェイシャルトリートメントと組み合わせることで施術の効果をさらにアップさせます。効果的にエッセンスを取り入れて結果を出している、セラピストの樋渡志のぶさんが解説します。

取材・文◎中澤小百合

精神的な悩みに対応できないもどかしさ

東京郊外の静かな住宅街の一角にホリスティック・アロマテラピーサロン「kupukupu」を構えるセラピストの樋渡志のぶさんは、フェイシャルトリートメントの施術にフラワーエッセンスを取り入れています。

2002年からアロマセラピストとしての仕事を始めた樋渡さんですが、2〜3年経つと、お客さまと接する上である壁に突き当たりました。

「信頼関係が出来てくるとお客さまから精神的な悩みを打ち明けられることがあり、『それはアロマだけでは解決できない……』と思う場合が多々ありました。セラピストになって間もない頃は、マニュアル通りに『心療内科に行ってみてはどうですか？』と言うしか出来ませんでしたね。プライベートなことを聞き過ぎてもいけないと思っていました。でも実際に病院に行き、薬を飲み始めるお客さまの様子を見ていると、『感情面の悩みに物質的なものがどれだけ手助けになるのか』と疑問を感じるようになりました」

フラワーエッセンスコンファレンス参加プロデューサー 4連続インタビュー

5月に開催された国際コンファレンスには、世界から人気プロデューサーが大集結。注目のプロデューサーへのインタビューと、行われたワークショップをご紹介します。

取材・文◎水原敦子、中澤小百合

Interview1

「パワーオブフラワーヒーリングエッセンス」プロデューサー イーシャ・ラーナーさん

花の持つ性質のアーキタイプ（原型）から、作用をより深く理解する

※Profile
イーシャ・ラーナーさん

パワーオブフラワーヒーリングエッセンスの創始者。また、占星術師、タロット学者、コンサルタント、フラワーエッセンス・プラクティショナー。『インナーチャイルドカード』『パワーオブフラワーカード』の著者。

早朝の朝露に惹かれて

エッセンスを作り始める前、私は自分でバッチフラワーレメディを愛用しており、バッチ博士が研究した植物に宿る朝露に興味を持ったのです。

ある早朝、アイリスの花に朝露がたくさん降りていました。私は心惹かれて、その朝露をスポイトで集めてエッセンスにしたのです。それを飲んでみると、生命力が活性化したように感じました。これが初めて作ったエッセンスなので、アイリスは今でも私にとって特別な花です。その後、山々を歩いた時にキレイな花が咲いているのを見て、作らずにはいられなくなりました。そして1999年、「パワーオブフラワーヒーリングエッセンス」を創設したのです。

野生の花の純粋なエネルギー

とりわけ私は、野生の花に惹かれます。野生のいきいきとした質や純粋なエネルギーが好きで、花々が自生している環境でエッセンスを作っています。今は自然豊かなオレゴンの山々に自生する花を主に使いますが、ハワイやアリゾナの砂漠の花などからも作っています。現在はシングルエッセンス、コンビネーション、目的に特化したキットの他、オラクルカードがあります。このカードに描かれているのは、花の名前と、神話の神々や天使などのイメージです。私はヴィジュアルイメージが好きなので、鮮やかな色で描かれた絵を使っています。

クライアントには、神々や天使と花を関連づけ、アーキタイプで説明すると伝わりやすくなります。人は、抽象的なものよりヴィジュアルで見た方が深く理解できるのです。天使や妖精、神々は本来肉体のない存在ですが、ヴィジュアル化することで、自分と関連づけて理解しやすくなります。

エッセンスとアートのバイブレーションで癒す

私は子どもの頃に幽体離脱をした時「この世は全てが光だ」と感じました。この世は全てバイブレーションであり、私たちが世界をより体験できるように、自然界が形をとってくれているのです。私の作るエッセンスは、花のエッセンスと、カードに描かれた花のアーキタイプのヴィジュアルアートを通して自然のバイブレーションを取り入れ、癒されるのが大きな特徴です。

WORKSHOP in 世界大会

ハリケーン後に一斉に咲いた、アイリスの力を知る

「地球の波動はどんどん変化しています。変化の時代に大切なのは、1人ひとりが新しいパラダイムを担い、グラウンディングすること。それにより全体性が生まれ、共同創造できるようになるのです」

ハリケーン・カトリーナの被害を受けたルイジアナ州の花がアイリス。カトリーナが通過したことによって、地域固有のアイリスが冬眠状態から目覚め、開花。イーシャさんはこの特別なアイリスを使ってエッセンスを作りました。その時に、アイリスのエネルギーが太陽神経叢を癒すことを発見したそう。

未曾有の災害から、再生と創造へと向かう人類に、植物が我々に寄り添い、勇気づけてくれていると感じられました。

東日本大震災で、瓦礫の下から発見された赤ちゃんを「再生のシンボル」としてスライドで紹介するイーシャさん

Interview2

「オーストラリアン・ブッシュ・フラワーエッセンス」プロデューサー イアン・ホワイトさん

植物の知識に精通した自然療法士によるたくましく美しい豪州の花々のエッセンス

※Profile
イアン・ホワイトさん

オーストラリアのハーバリストの5代目としてシドニー郊外のブッシュ（灌木地域）に育つ。曾祖母と同様、オーストラリア原生植物の専門家である祖母から植物の癒しの力を教わる。ニューサウスウェールズ大学にて理学士の称号を取得。その後、自然療法、ハーブ療法、ホメオパシーの学位も取得し、1979年から自然療法家として活躍。エッセンス研究は30年にも及ぶ。

純粋なエネルギーが保たれた地のパワフルなエッセンス

世界最古の大陸であるオーストラリアには、さまざまな種類のたくましく美しい花たちが育ち、純粋なエネルギーが保たれています。オーストラリアン・ブッシュ・フラワーエッセンスはそこで作るエッセンスだからこそ、摂った人に素早く影響し、速効性があると言われるのではないかと思います。そして、肉体レベルにまで働きかけるのも特徴です。

どのように肉体に働きかけるかは直感もちろんありますが、自分のバックグラウンドである自然療法の観点から、身体と感情の繋がりを考えます。また、形状からも判断できます。不妊に悩む女性の苦痛を和らげる効果のあるシーオウクは、果実が卵巣と同じ大きさで、その形は卵巣から出た卵子をキャッチする「卵管采」に似ているため、子宮や卵巣の悩みに作用すると考えられます。ギリシャの産婦人科医が、このシーオウクとピンクフランネルフラワーを使うことで、妊娠に良い結果が出たと報告しています。

ネガティブなエネルギーや電磁波などの影響から身体を守ってくれるものも

オーストラリアン・ブッシュ・フラワーエッセンスは目的に応じたコンビネーションエッセンスも豊富です。その中の「エレクトロ」は、電磁波や有害なエネルギーから身体を守ってくれるコンビネーションエッセンス。私はこれを長年、環境団体を通してチェルノブイリの汚染地区の子どもたちに寄付して使ってもらっています。

今の日本の子供たちにも非常に大切なエッセンスだと思います。また、携帯電話などの電磁波に囲まれて生活している全ての人にも有効です。飲むだけでなく、ボトルを身体のそばに置いたり、持ったりするだけでも効果があるため、私はガラス瓶にこのエッセンスを入れたものをネックレスにして、いつも身に着けています。このネックレスは今後、日本でも発売したいと検討中です。

アロマやハーブではケアしきれない感情面にアプローチ

フラワーエッセンスはあらゆるセラピーと容易に組み合わせることが出来、その人のやり方を阻害せずに使えます。アロマやハーブは肉体からのアプローチ。それに対して、フラワーエッセンスは感情にフォーカスしてそこから肉体に働きかけていくもの。

フラワーエッセンスの知識を持つことで、クライアントの表情や対話などから、その人に必要なものを知ることが出来、感情面にアプローチすることが可能になります。フラワーエッセンスを使ったことのない方も、ぜひその効果を実感してみて欲しいと思っています。

WORKSHOP in 世界大会

氷河の水を使ったエッセンスで南極のエネルギーを感じる

今回、イアン・ホワイトさんのワークショップで取り上げられたのはライト・フリークエンシー（光の波動）というシリーズ。ワークでは、このシリーズの代表的エッセンスでもあるアンタークティック・エッセンス（南極エッセンス）を7滴、口の中に垂らしての集団瞑想を行いました。15分間の瞑想の後には隣の席の人とシェア。5日間に渡って南極を航海し、氷河の水を使って作られたというこのエッセンスを飲むことで、それぞれが南極への旅をイメージし、エネルギーを感じました。

その後は、アークティック（北極エッセンス）、アマゾン、バイカル湖、マダガスカル、マウントピナトゥボなど、同シリーズのエッセンスの特徴についての解説がされました。

自然療法士でホメオパスでもあるイアンさんは、終始軽快な口調。スマートな体型にパープルのスーツが印象的

Interview3

「ヒマラヤンフラワーエンハンサーズ」
プロデューサー　タンマヤさん

エッセンスは悪い部分を治すのではなく、人間の進化を助け、高めるためのもの

＊Profile
タンマヤさん

演劇の学位を取得後、インドのスピリチュアルコミュニティに暮らし、瞑想文化、伝統的精神世界の教え、心理療法を学ぶ。1990年ヒマラヤでのリトリート中、花々に話しかけられ、エッセンスの作り方を教わる。それ以降、花々の癒しのエネルギーを世界中の人々に届けるために、フラワーエッセンスのリサーチやワーク、その他の癒しのワークを続けている。

真実を見つめる地、ヒマラヤで花に話しかけられた

以前、人生最大の転機に直面した時、ヒマラヤの大自然の中で隠とん生活に入りました。数ヵ月経ったある日、突然花たちから話しかけられ、「ヒマラヤの花でエッセンスを作り、世界へ広めるように」とメッセージを受け取ったのです。

ヒマラヤは仏陀伝説の地であり、瞑想を極めたい人や真実を見つめたい人が集まる場所。そこでエッセンスを作ることになったのも、自然の流れなのでしょう。私のエッセンスの本質は人生で不要なものを脱ぎ捨て、自分にとって本当に大切なものにだけ意識を向けて、エネルギーバランスを取り戻し、再び力強く人生を歩み出させてくれるところにあります。

不要なブロックを取り除き、本来持っている光を輝かせる

エンハンサーとは「高める」という意味。花たちは私に「私は薬ではありません。私は人々を高めるためのものです」と語りかけてきました。人間は悪いところがなく生まれてきました。もともと持っている光をいかに輝かせるか。感情や肉体に不要なブロックがあると、その輝きが閉ざされてしまいます。花は悪いところを治すのではなく、そのブロックを取り除き、進化する助けになってくれます。エッセンスを作る時、私は単なるチャネルでしかありません。想念が入らないようにするということを心がけるのみです。

日本の女性も殻を破って、ますます自由に！

私が一番フォーカスしているのは、意識の変容です。心理的な問題を抱えているクライアントもいますが、思考パターンが邪魔をしているのであれば、意識を変容して手放すことで、その人が生きている意味やその人が持っているものをより活かすことが出来るようになります。

日本人は規則正しく、厳しさをもった文化的な背景があります。男性優位の考え方が残っていて、女性が抑圧されているとも感じます。しかし女性は本来、男性よりもパワフルな存在。現在は女性が本来のパワーを出せなくなっている状態です。私のワークショップに来るのはほとんどが女性ですが、多くの人たちは殻を破ろうとしています。今回のコンファレンスでもたくさんの方が来てくれて、皆さんのエネルギーがどんどん重なって素晴らしいものになりました。

私のエッセンスの中で日本で人気があるのが「グラガ」。オレンジ色に輝くキノコから作られたもので、パワフルに意識を変容させます。殻を破って自由になりたいと感じる女性たちが、好んで使ってくれていると言えるのかもしれません。日本の女性もこれからますます自由に解き放たれていくのではないでしょうか。

TNCC Therapy Net College.com

セラピーが学べるWEB TV「TNCC」にて、タンマヤさんのワークショップ「チャクラを開くカギとフラワーエッセンス」を配信中！
詳しくは130ページの番組表をご覧下さい。
http://www.therapynetcollege.com

WORKSHOP in 世界大会　チャクラに対応したエッセンスで身体のエネルギーを感じる

テーマは、「チャクラ・ジャーニー」。ヒマラヤンフラワーエンハンサーズの代表的エッセンス「チャクラキット」を第1チャクラからクラウンチャクラまで順番に頭頂部に垂らし、エネルギーを感じるワークを行いました。

ワークショップの最初と最後には、みんなでダンスをする場面も。そのことについて取材時に訪ねると、「疲れている人もいたので、眠ったりしないようにね！」と笑顔を見せながら、「チャクラに特化したエッセンスなので、身体の中で滞りやすいエネルギーを動かすことにフォーカスをしています。最後のクラウンチャクラのワークでフワフワした状態の方もいたと思うので、身体を動かすことでエネルギーを足に戻してグラウンディングするという意味もあります」とのことでした。

タンマヤさんのワークショップは、最初と最後に全員でダンス。身体の緊張をほどいて、終始リラックスした雰囲気

Interview4

「インディゴエッセンス」
プロデューサー　アン・キャラハンさん

新しい時代を創る子どもたちのためのジェム（鉱石）のエッセンス

＊Profile
アン・キャラハンさん

インディゴエッセンスのプロデューサー。ホメオパスとして、自身のクリニックで子供のケアを中心に活動し、アイリッシュ・スクール・オブ・ホメオパシーの理事を経験。「インディゴチルドレン」の専門家としても知られている。

インドで創ったクリスタルのエッセンスに子どもたちが反応

私はホメオパスとしてクリニックを開業してきました。その中でエッセンスに出合ったのは、1998年のインド旅行です。その時はプロのエッセンス・メーカーになろうと思っていたわけではなく、ただ作り方を見せてもらっただけでした。クリスタルでエッセンスを作っていたのがとても興味深かったので、私も石のエッセンスを16種類、自分で作ってみました。

帰国後、そのエッセンスを何気なく、クリニックのテーブルに置いておきました。すると、セラピーで来ていた子どもたちが興味を持ったのです。私は彼らが使っても問題がないように、エッセンスをクリームにしました。そして子どもたちに、「身体に痛みがあったり、感情がわき上がってきたら、このクリームを身体に塗ってね」と伝えました。そして子どもたちがクリームを塗ると、良い結果が出たのです。そこで、本格的にクリスタルのエッセンスを作ろうと思ったのです。

変化の激しい今の時代のために生まれたエッセンス

「インディゴエッセンス」の特徴は、まさに〝今、この時代に対処するために出来上がったもの〟だということです。

私たちはとても急激な変化の時代に生きているので、大きく変わるエネルギーに対処しなくてはいけません。何が起こるのか確実なことは分かりませんが、古い体制などが行き詰まっていますし、自然災害も世界各地で突然起こっています。

今後、人々は古いパラダイムから新しいパラダイムへと移行し、世界を再構築し直すことになります。既に若い人々によって、テクノロジーと共存し社会貢献をする活動も世界で始められています。

インディゴエネルギーと繋がっている人は少なくありませんが、特に今の20～30代の方々が顕著です。彼らはクリスタルや石に惹かれます。もっと年齢が上になると、花に惹かれるようです。

当初インディゴエッセンスは子どもたちに対して作っていたのですが、彼らも大学を卒業して社会人になり、彼ら自身が子を持つ年齢になっています。ですから、これはすでに子どものためだけのものではなくなっています。

アロマと一緒に使うとエッセンスの効果がアップ

このエッセンスはアロマセラピーとも調和するので、オーガニック精油をよく一緒に使います。子どもが夜眠れない時などは、「スリープイージー」と「アンセトル」のどちらかをラベンダーの精油と混ぜてクリームを作ります。それを子どもの身体に塗ってあげると、非常に効果的です。精油とエッセンスとタッチングの3つが、お互いに作用し合うのです。

WORKSHOP in 世界大会　新しい時代の変化を起こす「インディゴ」の波動

「インディゴ」とは、太陽が昇り始めた夜明けの空の色。つまり、古い時代から新しい時代へと移行している今の時代のエネルギーのこと。インディゴのエネルギーを持った子どもたちは、自閉症や鬱、注意欠陥多動性障害などのケースが多かったのですが、彼らを普通の社会に適合できるよう矯正するのは間違いで、彼らこそ新しいタイプの子どもたちであり、普通と違っていることが彼らの役割、彼らこそ新しい時代の変化をもたらすのだと、アンさんは気づきました。

大人の私たちが、物質世界のルールに縛られている現状を見直し、ハートに比重を置いて生きる時に来ている……。インディゴエッセンスは私たちにこそ必要かもしれないと気づかされました。

クリスタルが中心のインディゴエッセンス。石は固有のメッセージを発している。提示された石は「自分を丸ごと愛する」という意味

取材協力◎ネイチャーワールド株式会社　03-5214-4881　http://www.natureworld.co.jp